

神奈川県 横浜遊技場組合(13支部)／
西区遊技場組合／港北・都筑遊技場組合／
茅ヶ崎遊技場組合／平塚遊技場組合／
相模原南遊技場組合

「地区組合・支部で被害防止の包囲網
『振り込め詐欺被害防止活動の輪』」事業



横浜遊技場組合 組合長
関根貞雄さん



西区遊技場組合 組合長
江川明裕さん



港北・都筑遊技場組合 組合長
奥田武夫さん



茅ヶ崎遊技場組合 組合長
趙 元来さん



平塚遊技場組合 組合長
白石良二さん



相模原南遊技場組合 組合長
志村恭万さん

地区組合が強いつながりで 振り込め詐欺防止に取り組む

被害額が膨大な神奈川県の振り込め詐欺

さまざまに手口を変え、執拗に繰り返される「振り込め詐欺」。その被害者の多くが高齢者であり、社会的弱者を狙った卑劣な犯行であることは間違いない。ここまで被害が常態化してしまうと、もはや被害にあった人の個人的な責任に帰すだけでは問題は解決しない。社会を挙げて、振り込め詐欺の撲滅に取り組む時期に来ている。

昨年、神奈川県の高齢者を狙った振り込め詐欺の被害件数は1340件、合計被害額は41億2300万円にも達した。これは一昨年の被害額の3倍以上にあたる膨大な金額である。そこで神奈川県警察では、今年2月、「詐欺見破りDNA『だまされない(D)。偽息子(N)暴きます(A)』作戦」と題したキャンペーンを開始し、「息子はサギ?!」という標語を掲げたポスター6000枚を県内の駅頭や繁華街に貼り、啓蒙した。また、「絆通帳」と名付けた取り組みも始めたが、これは60歳以上を対象に、高齢者宅を巡回連絡などで訪れた警察官が、預貯金通帳の表紙裏側にスタンプを押し、空欄に子どもの連絡先やもしものときの合言葉を記入してもらい、預貯金を下ろしてしまう前に、相手が本当の家族かどうかを再度確認してもらおうというもの。

神奈川県遊技場協同組合(以下、神遊協)では、いち早くこのポスターを取り寄せ、組合員全ホールで掲示しているほか、絆手帳に押すスタンプ約800個を作製し、神奈川県防犯協会連合会に寄贈した。

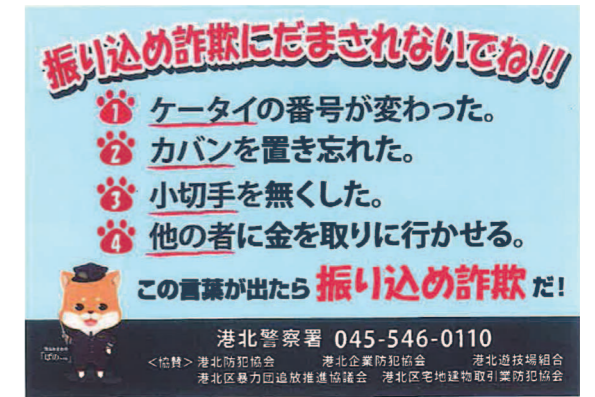
地区組合によるアイデアを活かした活動

さらに、神遊協の傘下にある横浜遊技場組合をはじめとする6地区組合・13支部組合では、地域の高齢者の方々が一人でも被害にあわないことを願い、郵便はがきやカード、カレンダーを活用した振り込め詐欺被害防止活動に取り組んだ。

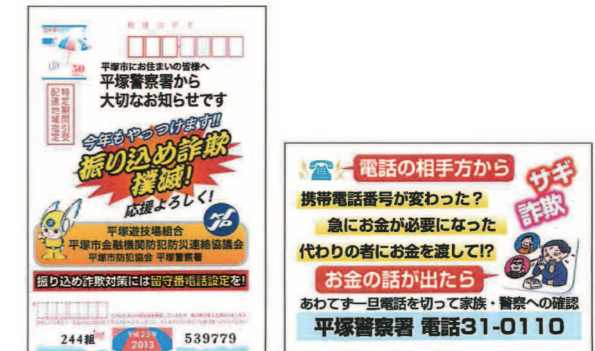
まず、横浜遊技場組合(13支部)、西区遊技場組合、港北・都筑遊技場組合、平塚遊技場組合、相模原南遊技場



振り込め詐欺の手口を記載したポスター



被害防止カード



周辺地域の高齢者宅に配送したかもめーる

組合では、振り込め詐欺にあわないように注意するはがきを作成し、それぞれの市区町の郵便局から地域の高齢者の家庭に配送した。これは、郵便局が地域の居住者の年齢層をよく把握していることを活用したもので、振り込め詐欺の主な被害者である高齢者の家庭にピンポイントで配達できる。今回、使用したはがきは、お年玉付き年賀はがき、かもめーる(抽選くじ付きはがき)で、くじが付いていることにより、はがきを受け取った後ですぐに捨てられるということがなく、長く手元に取って置かれるというメリットがある。

さらに、港北・都筑遊技場組合では港北防犯協会などと連携し、電話機の横に立てられるようなフォルダーが付いた振り込め詐欺被害防止のカードを作成して、地域の高齢者の家庭に配布した。

また、茅ヶ崎遊技場組合では、振り込め詐欺被害防止

の標語が入った卓上用カレンダーを作成し、茅ヶ崎市や寒川町内の駅前など街頭で配布したほか、ホールを訪れた年配客を対象に、「被害にあわないように」というひと声を添えて、スタッフが手渡した。

相模原南遊技場組合では、かもめーるで使用した振り込め詐欺の手口が記載されたデータを使用して独自に大型のポスターを作成、相模原市南区内の各ホールに掲示し、遊技客に被害に合わないよう呼びかけている。

これらのはがき、カード、カレンダーには、それぞれ遊技場組合の名前が入っているため、業界を挙げての振り込め詐欺撲滅に対する強い意思が地域住民に伝わったものと推察される。こうして地区組合から始まった「振り込め詐欺被害防止活動の輪」であるが、いまでは神奈川県内すべてのホールに広がり、神遊協挙げての取り組みとなっている。